

知恵ビジネスの飛躍的な集積

〈企業の顧客創造と地域の自律的な成長〉



会頭
立石 義雄
オムロン株式会社
名誉会長

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

円高やデフレが長期化し、電力料金の引き上げが見通される不透明な経済環境の中、新政権が誕生し、年が明けました。新しいリーダーのもと、持続的な経済成長に向けて、潮目の変わる1年となることを期待しています。

昨年、本所は創立130周年を迎えました。記念式典や会員のつどいでは、多数の関係者とともに節目の重みを分かち合い、烏丸通中央分離帯の植樹事業には、会員の皆さまから多額の寄付を頂戴し、京都市に寄贈することができました。会員の皆さまのご厚志に心から御礼申し上げます。

また、京都・知恵産業ウィークは、展示会や産業観光ツアーを通じて、広く府民・市民の皆さまに、京都産業の歴史と未来への展望を体感いただく、初の試みとして実施いたしました。特に、京都産業まつりでは、本所が経営支援に携わる、知恵ビジネス認定企業などの小さくともキラリと光る中小企業を数多く紹介でき、個別企業への地道な経営支援活動が実を結びつつあると感じています。

本年は、平成22年に策定した3カ年計画「ニュー京商ビジョン・セカンドステージ」の最終年度を迎えます。ビジョンでは、平成25年を「飛躍的に知恵ビジネス産業群の集積が始まる時期」としています。京都の中小企業は、独自

の強みや京都の知恵の蓄積を活かして、新たな顧客創造・価値創造を実現し、地域を自律的な成長へと導くために、そのポテンシャルを發揮しつつあると思います。オール京都の産業育成の司令塔となる「京都産業育成コンソーシアム」との連携により、成果の見える化を図り、さらなる知恵産業の誘発につなげて参ります。

環境、資源エネルギー、安心・安全、健康、医療、福祉、農業など、今後の成長が期待される分野は、大企業でなくても参入でき、地方でも成長できる内需型産業です。新しい地域のニーズにきめ細かに対応し、磨き上げられた高品位・高品質の製品・サービスは、真にグローバルな世界市場でも競争力を有し、アジアの成長ダイナミズムを取り込むことは間違いありません。地域の自律的な成長と日本経済の再生に向け、各地で地域に根差した内需型産業が胎動する1年になることを期待します。

また、オール京都でビジョンを共有し、世界から人々が集う創造都市としての都市格向上を目指すことも大切です。都市としての魅力を磨くことによって、国内外から多くの訪問客を迎えることができ、すそ野の広い京都の観光産業の振興につなげたいと考えています。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

新春随想

将来像を思考し、行動する一年に



副会頭
株式会社京都銀行
代表取締役会長
柏原 康夫

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
デフレや超円高への対応、エネルギー問題、そして社会保障制度改革など、多くの課題を抱えたまま新たな年を迎えました。

さて、社会では、「失われた20年」と揶揄され閉塞感が次第に蔓延するにつれて、チェンジや維新といった変革を切望する声が高まっているように思います。

しかし、大きな転換期に差し掛かったわが国が向かうべき方向を、安直に決断してよいはずがなく、一日も早い変革を待ち望みつつも、一方では焦燥のあまり小手先の変革に陥ることのないよう我慢強さも求められます。

「知恵産業のまち・京都」で事業を営む私たちにいま必要なものは、希望に満ちた将来像を思考して、その実現に知恵を絞り、そして果敢に行動に移す実行力であり、未来に向かって、「小さくとも実のある変革に自ら取り組み姿勢」だと思います。

「思考は現実化する」という強い信念を持ち、会員の皆様のご支援に微力を尽くしてまいる所存でございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭の辞



副会頭
西陣織工業組合
理事長
渡邊 隆夫

皆様、明けましておめでとうございます。

年末に衆議院選挙が終わり、再び自民党の天下となりました。しかし小選挙区制度と言うものは、残酷です。きつと刺客などと言うと怨みだけが残ることになるでしょう。ただ、政治とは国民の意に沿うだけでは、単なるポピュリズムに墮するだけで、まさにローマ帝国滅亡のパンとサーカス社会となります。

恥ずかしかったのは、脱・卒と言葉は違いますが、原子力発電がすぐにでも止められる、停止できるなど、まさに勝手な願望で、大人の論議ではありません。また電力自由化で、太陽光発電を電力会社に高額な価格で買取らせることなど、まさに昔の政商の発想です。

人口減少、高齢化社会、しかも急速にそれが進行していく中、領土、国民の預金、あるいは保険制度など、国があってはじめての国民生活であることを念頭に、経済とは経国済民であり、決して金儲けでないことを念頭に、京都商工会議所の運営をするべく努力いたします。

「チャレンジ精神」で

新たな成長を



副会頭
京セラ株式会社
代表取締役会長
川村 誠

おめでとうございます。本年が皆様にとって良き年でありますよう祈念申し上げます。

閉塞感が漂い、転換期を迎えている日本経済ですが、体制を一新した世界主要国の新たな経済政策が、暗夜に光明が差すように、世界経済の活性化、ひいては日本経済の再起を促すことを期待します。

しかし最も大切なことは、我々自身の心の有り様であると思います。混迷を深める経営環境であるからこそ、「チャレンジ精神」をもって、新たな成長をはかることが、今ほど望まれている時代はないと考えています。

「チャレンジ精神」とは、勇気をもって未踏の境地に挑み、いかなる障害があろうとも挫けることなく、さらに努力を傾注し、目標を完遂していくことであり、そのときに必要な心構えであると考えています。

そんな積極果敢な経営の実践こそが、京都の産業界を活性化し、「活力ある京都」の源泉になるものと信じます。
本年も、皆様の倍旧のご支援を衷心よりお願い申し上げます。

「不易流行のまち京都」



副会頭
株式会社ワコールホールディングス
代表取締役社長
塚本 能交

新しい年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨秋は、創立130周年の記念事業「京都産業まつり」を、実行委員長として開催いたしました。

会場には、1万2千人を超える多くの府・市民の皆様にお運びいただき、改めて地元の皆様への関心の高さを実感したとともに、成功裏に終えることができましたのも、ひとえに皆様のお力添えの賜と、心より感謝を申し上げます。

外交や経済など内外の情勢は、相変わらず閉塞感が漂っておりますが、こういう時代だからこそ、京都商工会議所の活動やイベントを通じて、京都の持つ知恵や技を発信することで、地元や入浴される人々に、少しでも元気になるっていただけるよう、活力を提供し続けることが大切だと考えます。

本年も立石会頭のもと、京商ビジョンの更なる進展に向け、一人でも多くの皆様の声に耳を傾け、ともに知恵を絞ることで、魅力あふれる「不易流行のまち京都」のために、微力ながら尽くす所存でございますので、引き続きご支援を賜れば幸いに存じます。

本年が皆様にとりまして、輝かしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

「努力に無駄なし」

そして「思考は柔軟に」



副会頭
株式会社島津製作所
代表取締役会長
服部 重彦

新年明けましておめでとうございます。

昨秋、ベンチャー育成で有名なボストンのMITを見学しました。その際に心に残る言葉がいくつかありました。

まず、自ら開発したレーザーの収束技術でベンチャーを起こし成功を収め、再びMITに戻った電気工学の教授。

「研究には失敗がつき物であり、その際でも研究の途中で生まれる副産物を正しく評価し、無駄にしないこと」丁度IPSの山中先生も「実験を失敗した際でも、どのようにすれば失敗するのかわかるので、実験に失敗は無い」と仰っていました。努力に無駄なし。才人にとって頂上ばかりが山では無いようです。

次にMITの事業化支援組織の一つ、Martin Trust Centerの最高責任者の言葉。
「Innovationを一番うまく機能させているのがアップル。マッキントッシュに使用されている2つの基幹技術は何れもアップル固有の技術ではない」

自らに無い、しかも既存技術の組合せで最先端のiPhoneを作り出すアップル。基幹技術の自社開発にこだわるあまり、その結果市場にあまり評価されない製品開発になりがちな我々メーカーにとって耳が痛い話です。思考は柔軟に。なるほどそのとおり。
いい年にいたしました。本年も宜しくお願いたします。